

広尾町の分析結果

学校と地域の関係性モデルによる地域住民と教職員の意識(2018)

分析: 兵庫教育大学 スクールコミュニティ研究チーム



分析結果の見方

- アンケート項目を「学校と地域の関係性モデル」の要素ごとに整理した。
- 要素ごとの比較を、住民と教職員で比較し、「意識の違い」を明らかにした。
- 上の分析で、特に問題と思われる点について、項目ごとの比較などを通じて、より詳細に分析した。
- 広尾町の住民および教職員の意識を、より客観的に分析するため、過去の調査結果（2016実施の他府県の結果）と比較した。

住民と教職員の意識差の結果から(1)

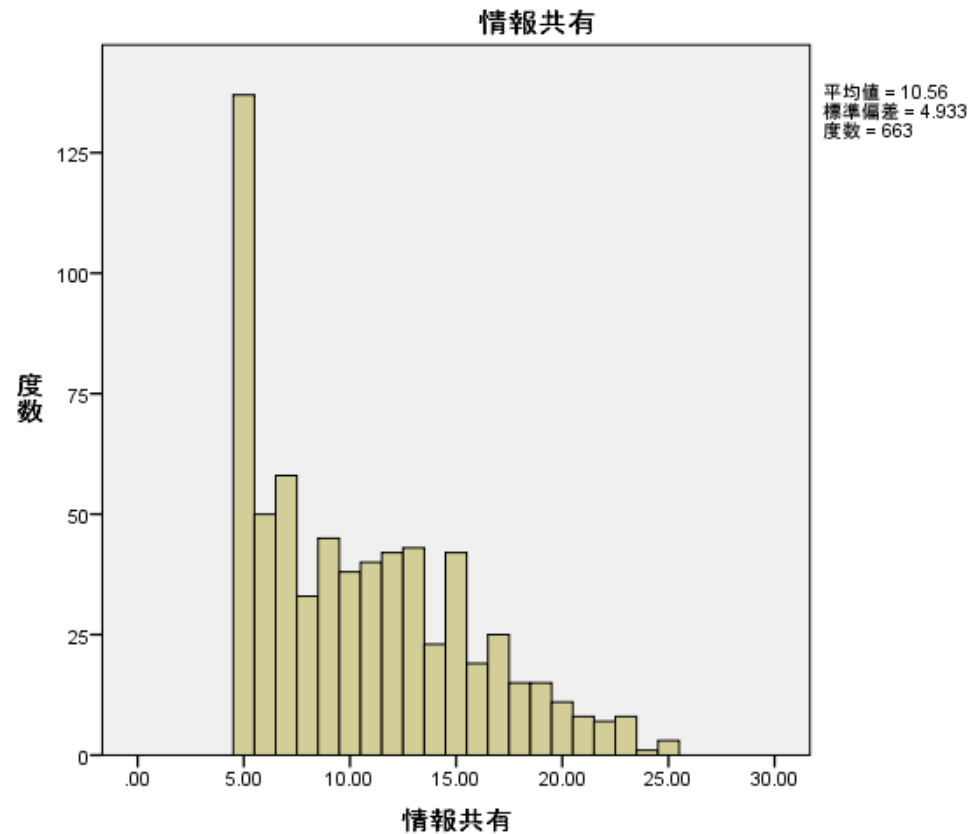
関係形成期の要素における違い

- 関係形成期の要素において、住民と教職員の意識差が統計的に有意に認められた。
- 特に、**情報共有における差が大きい**。
- 住民は、学校の情報を得ていない(知っていない)状態が顕著。
- 特に「学校が今取り組んでいる活動」や「学校が抱えている課題や、今何に困っているか」について知らない住民が多く、**学校との情報共有がなされていない**。
- また「学校評価」があることを「知らない」と答えた住民は45%にのぼり、**学校の情報発信のあり方が問われる**。
- 一方、教職員は、地域の情報をある程度、得ている・知っているとする回答が多い。

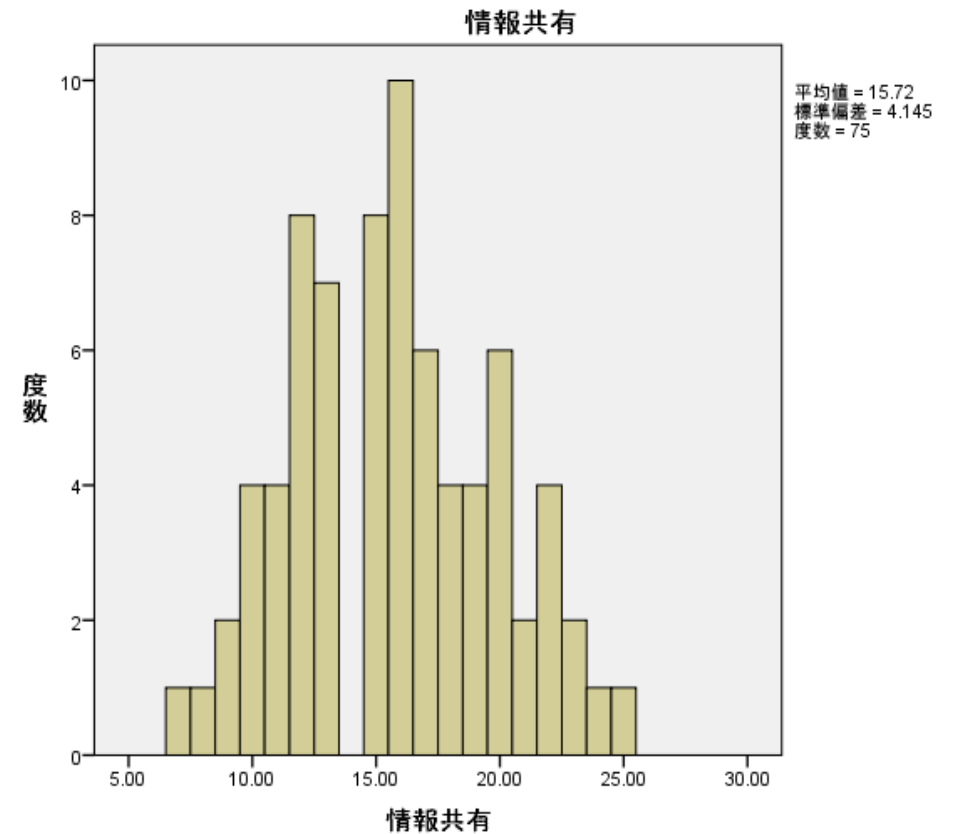
地域住民と教職員の意識差(1)

		関係性モデルの要素	N	平均値	標準偏差	t 値	有意確率
関係形成期	地域の中の学校重視	地域住民	670	11. 3224	2. 10571	. 449	. 654
		教職員	75	11. 2267	1. 70511		
	地域の積極的関与	地域住民	667	8. 3163	2. 94092	-2. 695	. 008
		教職員	74	9. 0946	2. 28257		
	情報共有	地域住民	663	10. 5641	4. 93294	-8. 709	. 000
		教職員	75	15. 7200	4. 14455		
	学校地域活動	地域住民	647	14. 3725	4. 92439	-5. 266	. 000
		教職員	75	16. 9733	3. 93520		

情報共有に大きなずれ

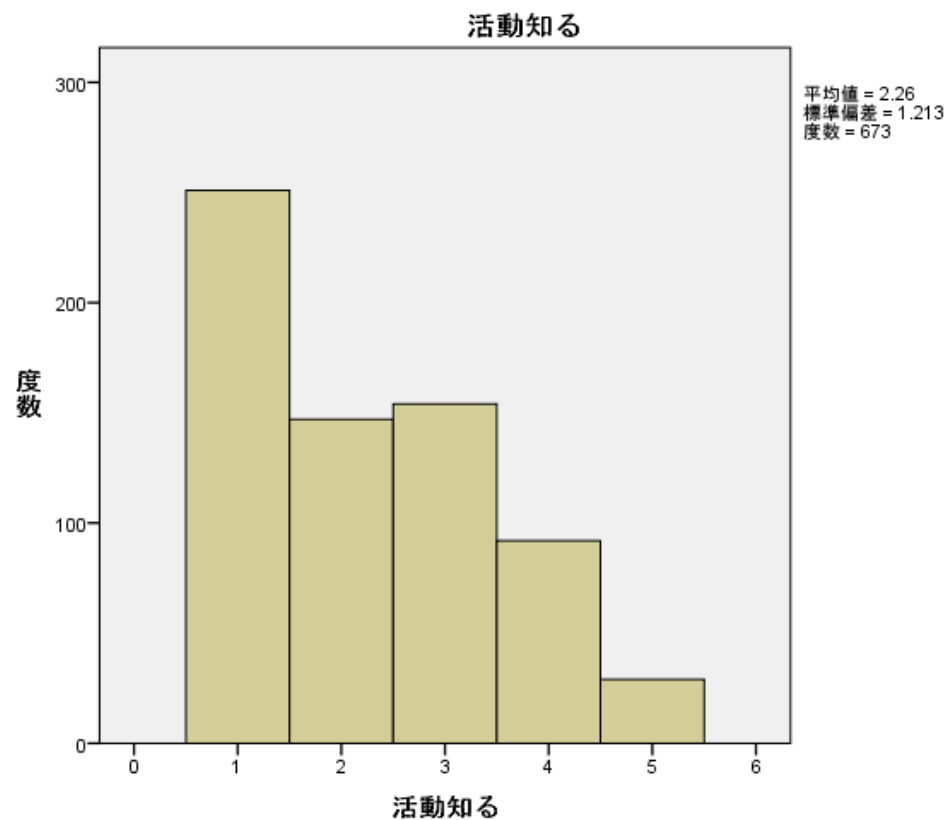


住民

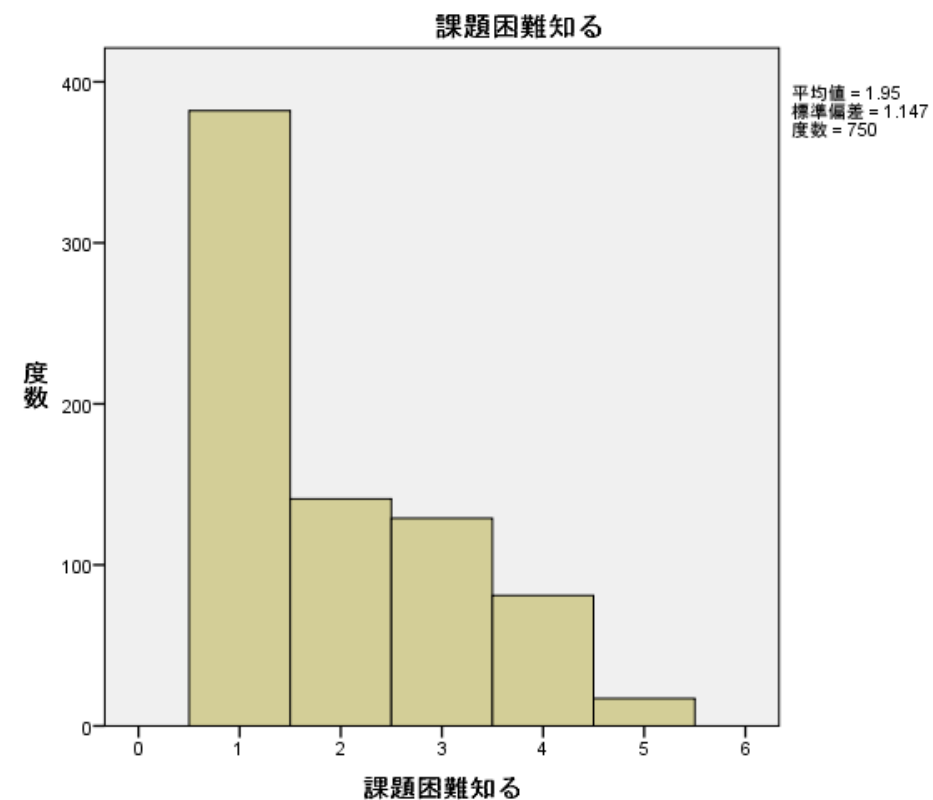


教職員

住民は学校の情報を得ていない

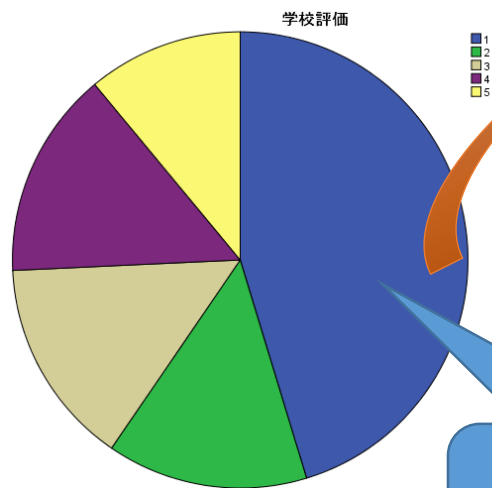


知らない ← → 知っている

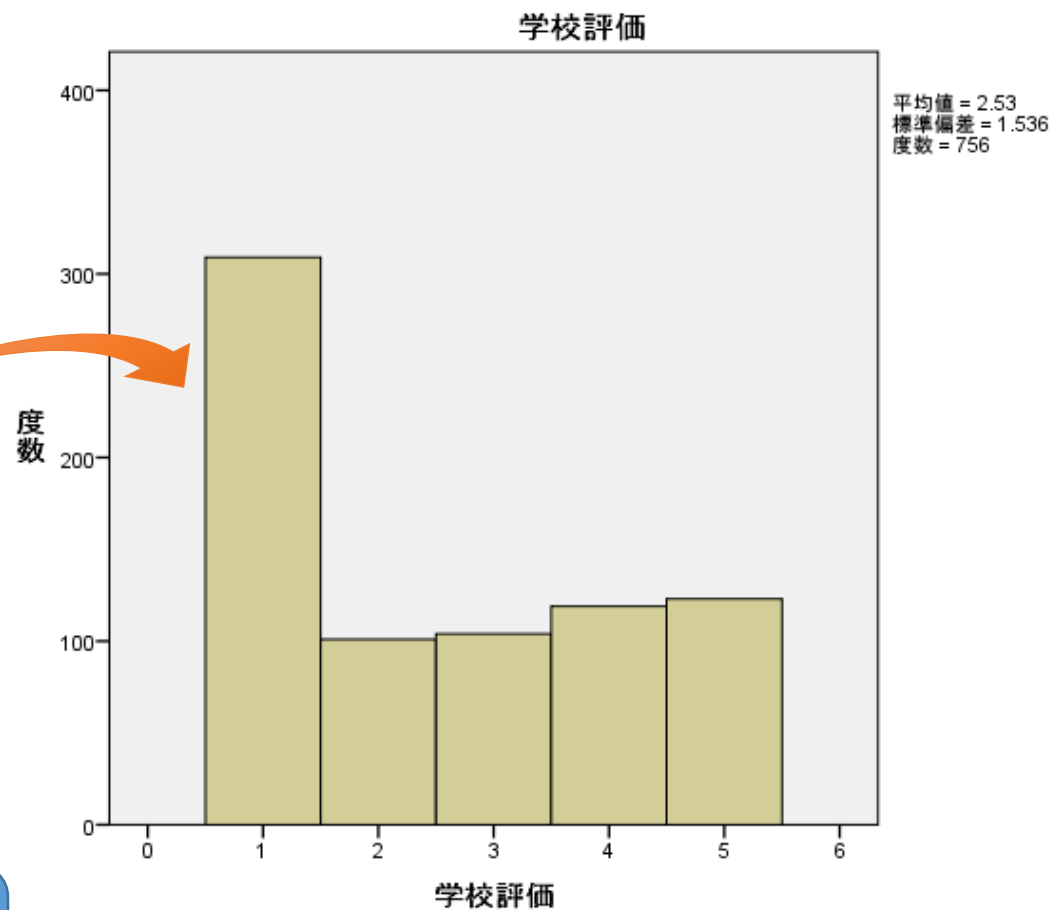


知らない ← → 知っている

学校評価があることも
多くの住民に知られていない



45%の住民が、
知らないと回答



知らない



知っている

住民と教職員の意識差の結果から(2)

共同運営期の要素における違い

- 共同運営期の要素では、教育課程協働を除いて、統計的な有意差は見られなかった。
- 学校で地域を取り上げる授業や学習が行われているかの認識において、教職員と住民のあいだにずれが見られた。
- **ここでも、住民が学校の情報を得ていない状態が、明らかになった。**
- 地域を取り上げた授業や学習、地域をまなぶ素材や人材の活用がなされているかの各項目について、**40から50%の住民が「わからない」と回答。**
- また「地域の求める子ども像の反映」については、住民の48%、**教職員の22%が、「わからない」と答えていた。**
- この結果は、「**地域の求める子ども像**」そのものの共有がなされていないことをも意味するといえる。

地域住民と教職員の意識差(2)

		関係性モデルの要素	N	平均値	標準偏差	t 値	有意確率
共同運営期	教育課程協働	地域住民	241	25. 1826	5. 60058	-4. 080	. 000
		教職員	48	28. 2292	4. 52999		
	地域に開かれた組織体制	地域住民	216	14. 4907	4. 36262	-. 029	. 977
		教職員	51	14. 5098	3. 80722		
	学校地域信頼	地域住民	668	10. 8997	2. 81469	. 131	. 895
		教職員	76	10. 8553	2. 58046		
	CS制度への態度	地域住民	658	13. 4544	4. 53687	. 451	. 652
		教職員	74	13. 2027	4. 67866		

学校の授業で、地域が取り上げられているか

授業取り上げ



わからない

41%

住民

授業取り上げ

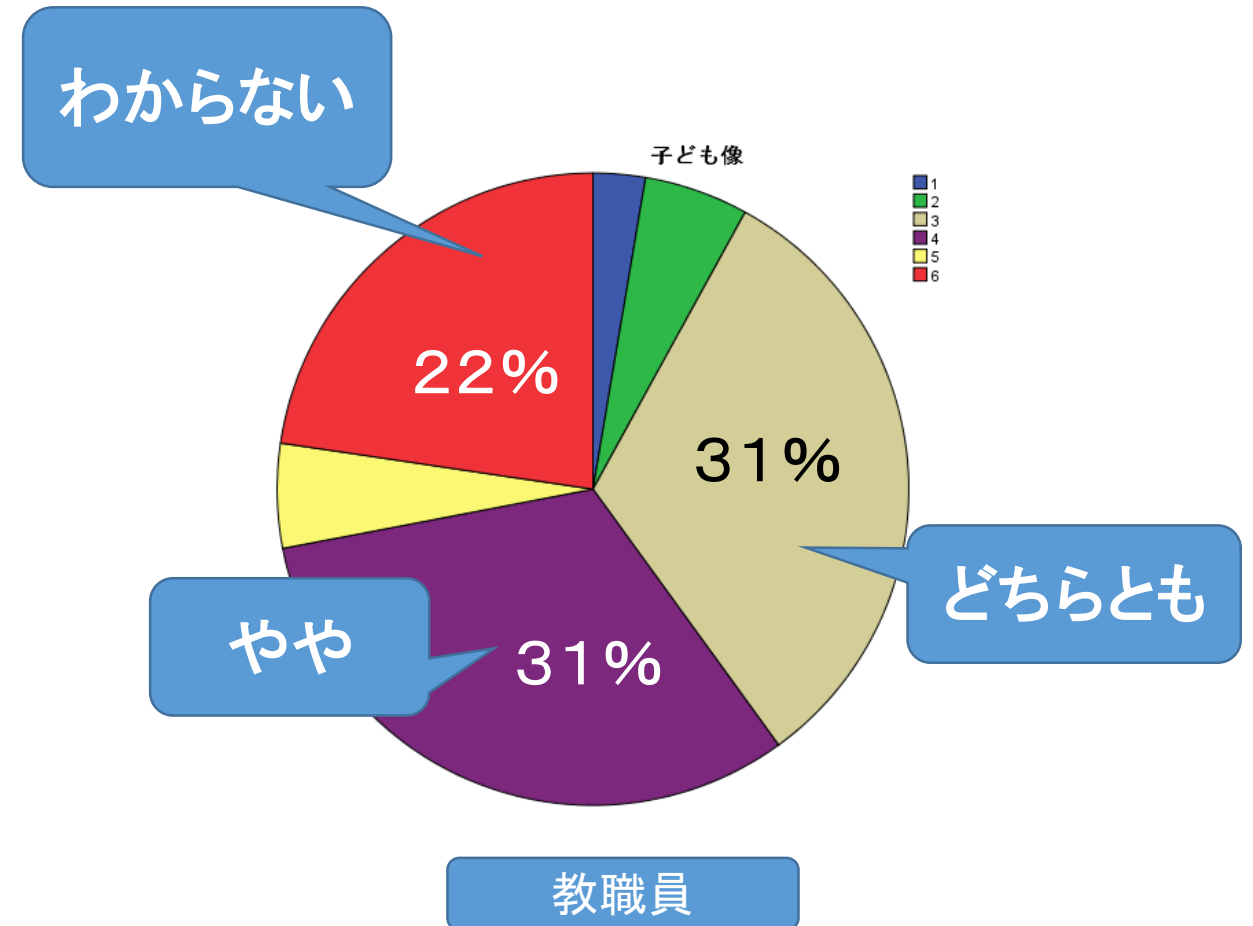
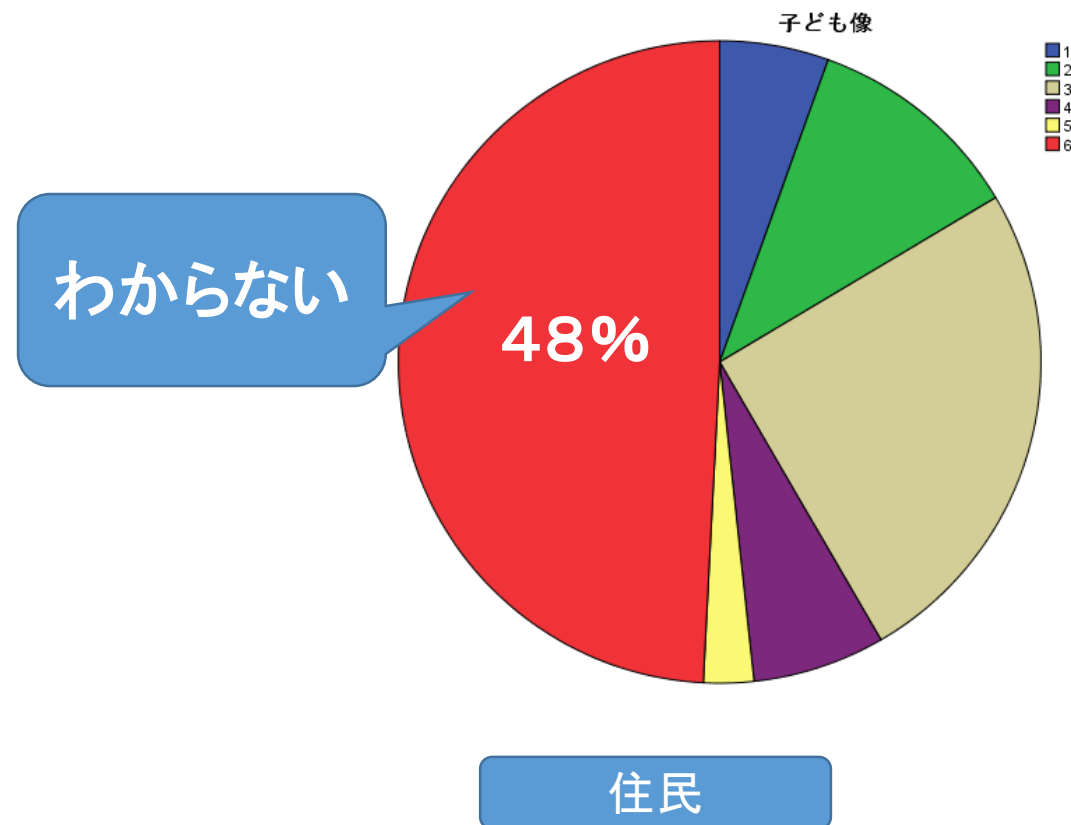


やや、取り
上げている

54%

教職員

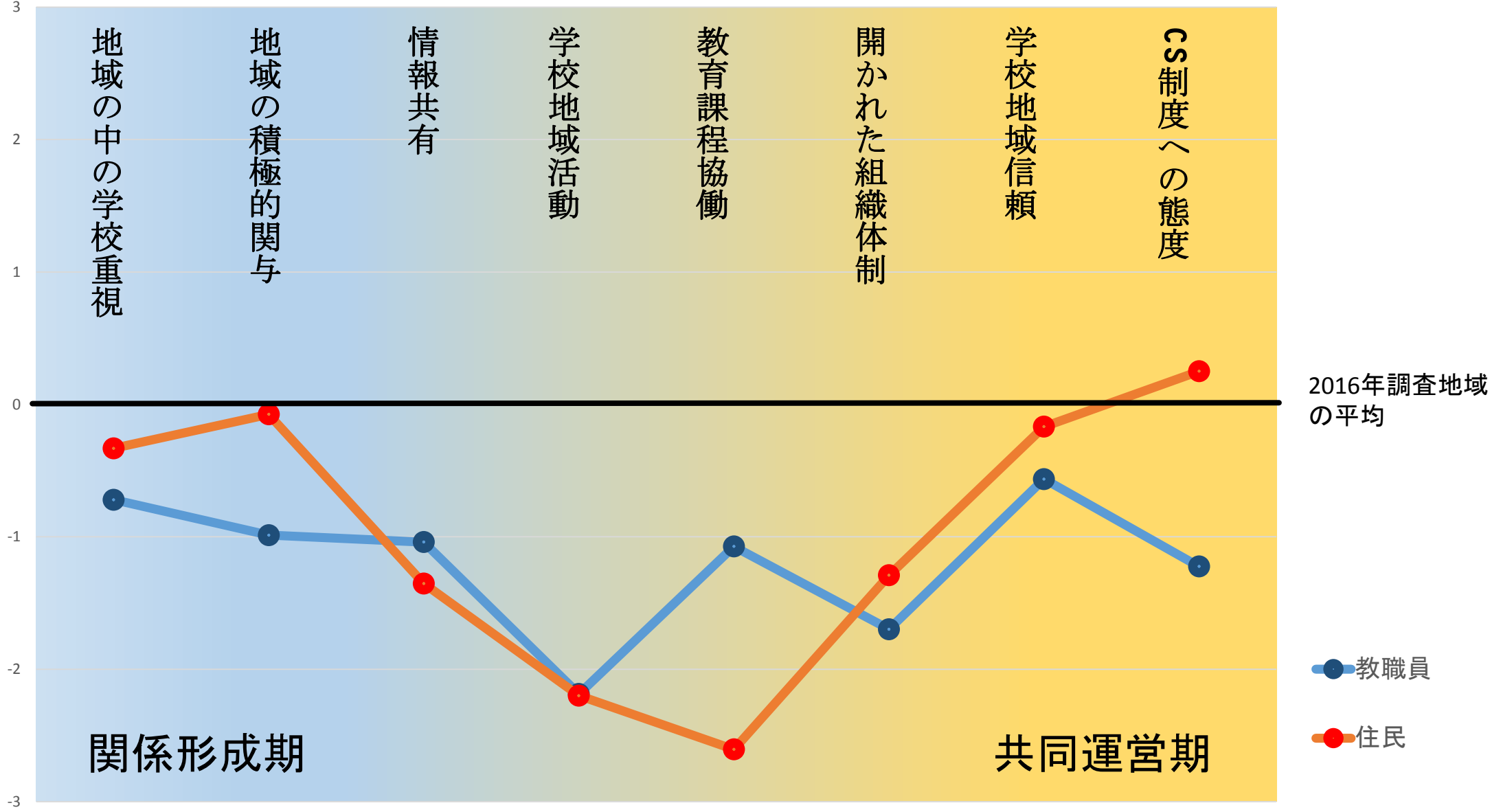
地域の育てたい子ども像が、学校の授業に反映されているか



広尾町と他地域との比較

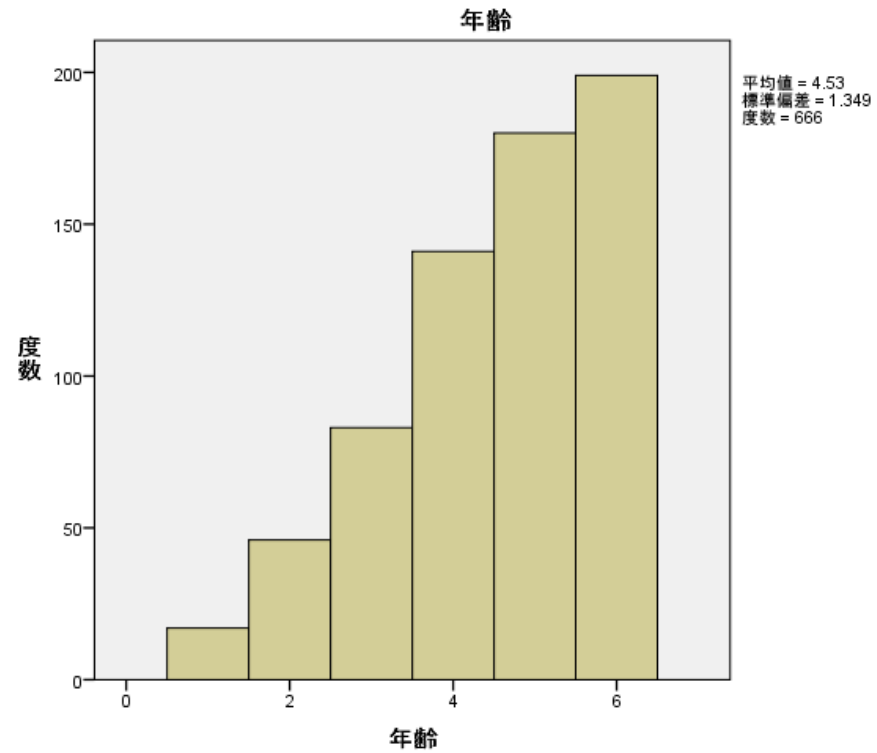
- グラフの基準線（黒）が、2016年調査地域の結果。
- 赤線は、広尾町住民の平均値が、他地域の住民の平均値からずれている様相を示す。同様に、青線は、広尾町の教職員の平均値が、他地域の教職員の平均値からずれている様相を示す。
- いずれも、ほとんどの要素で基準線を下回っていた。
- 特に、情報共有、学校地域活動、教育課程協働における低さが、住民・教職員ともに顕著。
- これらの要素が他地域を大きく下回った理由は、住民回答者の年齢分布による部分も大きいと考えられる。
- 一方、教職員の大幅な下回りは、年齢等の影響は考えにくく、今後の学校のあり方に一石を投じうるものと考えられる。

広尾町 他地域との比較



回答者の年齢分布

住民

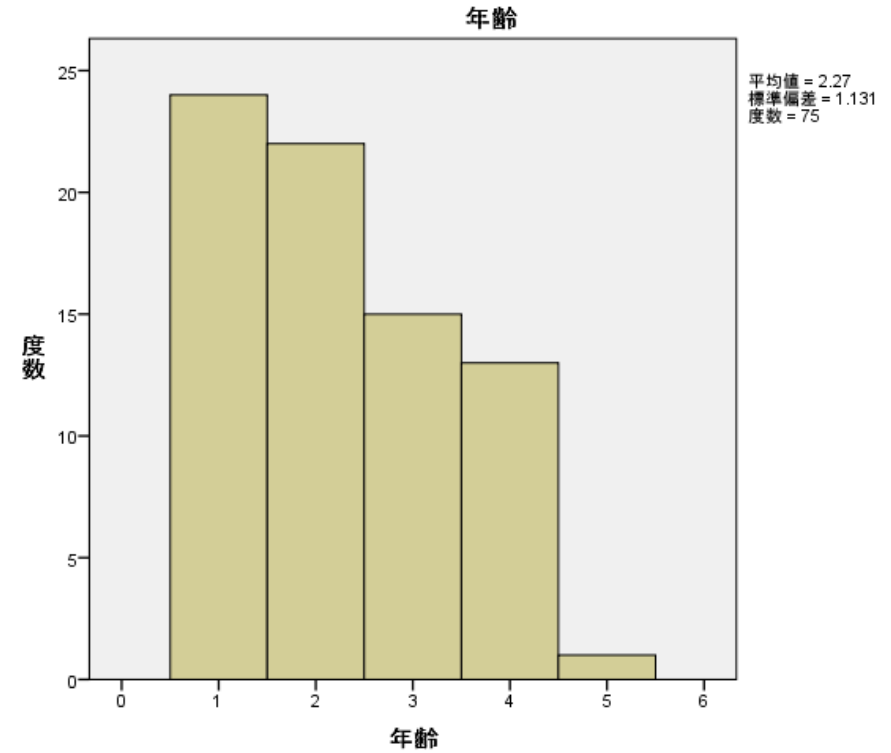


29歳
以下



70歳
以上

教職員



29歳
以下



70歳
以上